

自今以後御分國以守隨秤可令黃金諸色商賣者也、仍如件

天正十八年月日御朱印

〔國花萬葉記武藏〕秤

守隨彥太郎 日本橋南四丁目

〔寶曆四年〕大成武鑑〔三〕御秤所

京橋具足丁 十俵二人扶

守隨彥太郎

〔慶應四年〕大成武鑑〔三〕御秤所

京橋具足丁 扶

守隨彥太郎

〔經濟錄四律曆〕日本ノ古ノ秤ハ、如何ナル制ナリシト云コト詳ナラズ、當代ハ京都ト東都ト兩處ニ官局ヲ立テ、京都ハ神氏、東都ハ守隨氏ニ命ジテ大小ノ秤ヲ作ラシメラル、東國ハ守隨ノ秤ヲ用ヒ、西國ハ神氏ノ秤ヲ用フ、民間ニテ私ニ秤ヲ作ルコトヲ許サズ、秤ヲ作ルコトヲ得ザルノミナラズ、秤ノ少ニテモ損ジタルヲ私ニ修補スルコトヲモ許サズ、又神氏ノ秤ヲ東國ニテ用ヒ、守隨氏ノ秤ヲ西國ニ用ルコトヲモ許サズ、若此法ヲ犯スモノアレバ、兩局ノ徒見ヅクルニ隨テ、其秤ヲ奪取テ、衡ヲ折テ棄ル、是國家ノ法令ニテ、制禁甚嚴ナリ、度量衡ノ三ツノ中ニテ、只此法ノミ至テ嚴密ナリ、秤ハ微細ナル物ニテ姦ヲナシヤスキ故ナルベシ、誠ニ謹權量ヲトノタマヘル孔子ノ聖語ニ合テ、目出度法令ナリ、

權衡具

〔倭名類聚抄十〕權衡廣雅云、鍾、音、垂謂之權、乃於毛之、利

〔伊呂波字類抄〕波、錘ハカリノカモシ

〔節用集〕波、錘、又謂之權、稱、

〔書言字考〕節用集七、權、謂之權、雅、鍾、稱、

〔藻鹽草十七〕秤、秤の石、もけいねのはかりの石のおもくさ

〔東齋隨筆〕政道延久〇後善政には、先器物を作られけり。○中解器は方なる横を差す、石をく。り下。ておもしにして、二またの木に懸て、穀倉院にして、國々の米をば納られけり。